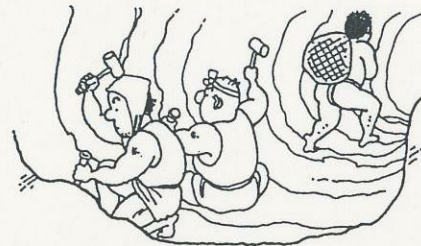


【まとめ】 福岡大堰くぐり穴用水路 ②

し工事には多額の費用と多くの日数がかかります。工事の間は水を止めなければなりません。1年でも米が作れないと生活に困ってしまいます。そこで、くぐり穴工事の専門家・南部吉助に工事をたのむことにしました。くぐり穴工事は、がけに「さま」と呼ばれる穴をいくつか掘り、その奥で横穴をつないでいく方法で進められました。さまは人の出入りだけでなく、掘り取った土を外に運び出すのにも使われました。

“つち”と“のみ”などの道具を使って、がけからはなれないように、ほぼ平行に掘り進む工事は大変な重労働でした。用水路を共同で使っている福岡、根白石、田中、小岳の4つの村の村人たちも吉助の指導のもと



一生けん命に働きました。

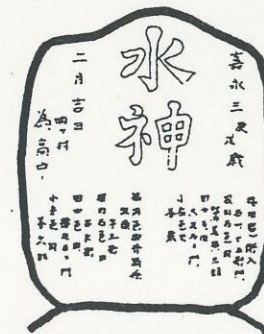
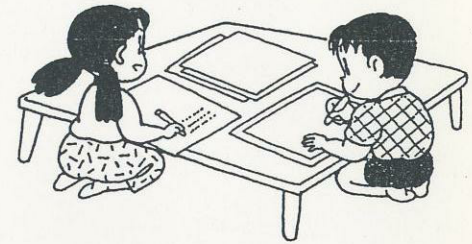
そのおかげで、1849年10月に始まった工事は、翌年2月には無事終わりました。



村人たちは、大変喜びました。そして、苦勞してくぐり穴を掘ったことをいつまでもわすれないように、記念の石碑を建てました。それが水神碑です。くぐり穴用水路は、その後、小さな工事が何回かおこなわれ、くぐり穴の長さも約2倍ののべ1200mにのびました。

大改修工事からおよそ150年たった現在でも、七北田川の上流から、このくぐり穴を通して流れてくる水が、およそ125ヘクタールの水田に豊かな実りを与えています。120戸ほどの農家が、この用水を利用して、今年も米作りにはげんでいます。

どんな方法で
まとめようかな？



水神碑は、もとは大畑の杉林の中にあっただよ。今から40年くらい前に人や馬にひかせて今のお薬師様の入口の所に運んだんだ。杉林の中にあっただよ、だれも見とれないからね

